

K K E Vision 2013

入場無料
(事前登録制)

■ 構造計画研究所
KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.

イノベーションを カタチに

10.17 thu 18 fri

ヒルトン東京

主催：株式会社構造計画研究所

基調講演

18日【Fri】

start 10:00

アベノミクスは 日本経済を救えるか？

スタンフォード大学 ファイナンス教授
(ビジネス・スクール)
高橋寄附講座シニア・フェロー、
日本プログラムディレクター
(アジア太平洋研究所)



Photo by Masato Kato

星 岳雄氏

Technical Session

17日【Thu】

社会インフラの維持管理、
環境・エネルギー、
建築構造、

ITによる設計・生産の進化、
タフな情報インフラとは…。

専門的なテーマの最新動向が満載！

General Session

18日【Fri】

“減災”と“イノベーション”の
2テーマで構成。

今後の日本、そして世の中を
より良くするアイデアを
ぜひお聞きください。

ごあいさつ

KKE Vision は、我々構造計画研究所が大学、研究機関とビジネスパートナーとの間に立ち、工学知を共有する場の提供を目的として、その形を変えながら10年以上続けてきたイベントです。昨今の国内における、世界に負けない新たな価値を創出するためのイノベーションへの気運の高まりを受け、今年のキャッチコピーは『イノベーションをカタチに』としました。失敗を恐れずアイデアを試し、どんどん世に出していきましょう、というメッセージを込めています。

今年のKKE Vision は、2日間開催します。1日目は、当社が探求する専門テーマの最新動向を全20講演に渡ってお伝えします。社会インフラの維持管理、環境・エネルギー、建築構造など、幅広い専門テーマにおける一流の講師陣の講演をご堪能ください。ご専門の内容にとどまらず、普段なかなか聞けない他分野にも気軽に足を踏み入れてみてはいかがでしょうか。

2日目は、より高い視点から来場者の皆さまと意識を共有したい“減災”と“イノベーション”の2つのテーマで構成しています。社会のあるべき姿の考察、今後の日本をより良くするアイデアをぜひお聞きください。

当社は、形ある製品をつくるわけでも、一般の消費者に直接サービスを提供するわけでもありません。私たちは、さまざまな専門的知見を結集し、再構築し、お客様にお役にいただけるようなソリューションの全体デザインを価値としてご提供したいと考えております。

イノベーションを起こす際のさまざまな課題を、どのように打開していくか？本イベントを通して、イノベーションがカタチになるそのきっかけが生まれることを願い、また、アイデアをお持ちの皆さまとの出会いが広がりますことを楽しみにしています。

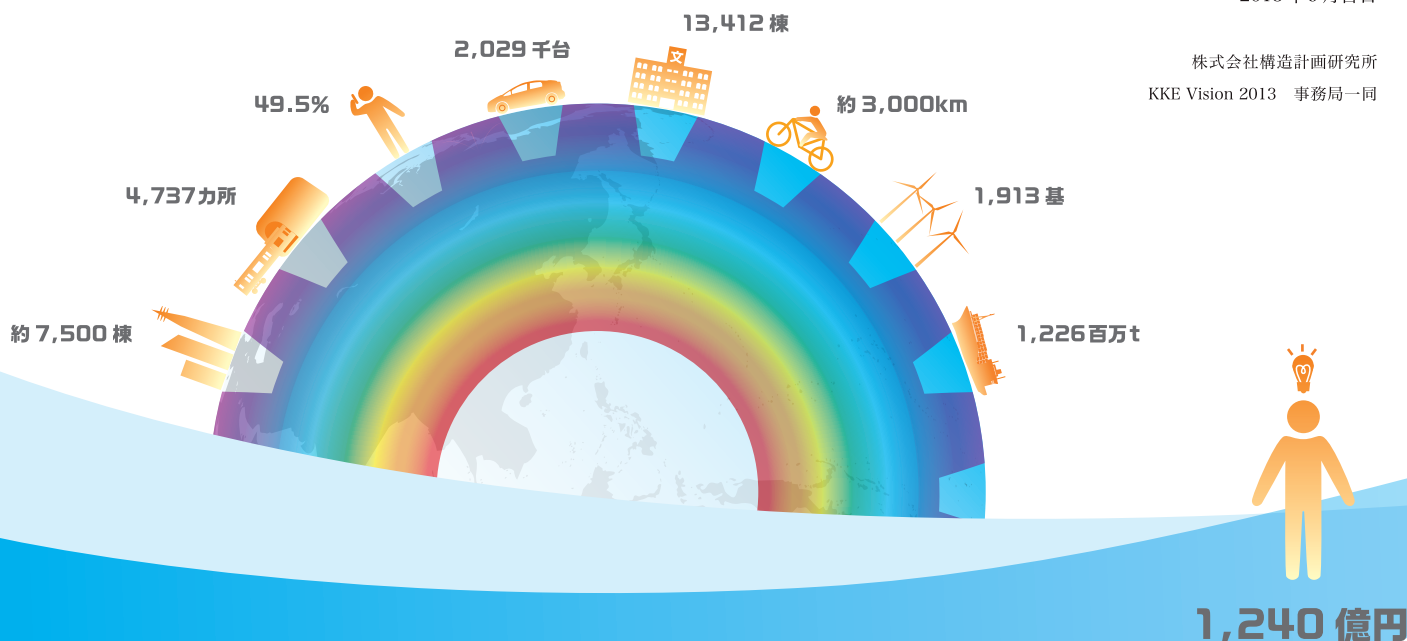


羽田 5位
(62,585千人)

成田 10位
(1,945千t)

2013年9月吉日

株式会社構造計画研究所
KKE Vision 2013 事務局一同



ベンチャーキャピタルによるベンチャー企業への投融資額
(2011.4~2012.3 出典：一般財団法人ベンチャーエンタープライズセンター)

個別通信の利用時間
(2012.4~2013.3 出典：財団法人 自治体衛星通信機構)

航空旅客数世界ランキング(羽田)*
航空貨物量世界ランキング(成田)*
(2011 現在 資料：(株)日本空港コンサルタンツ HP)

出入外国貿易貨物
(2011 現在 出典：国土交通省)

鉄道施設のトンネル総数
(2013.4 現在 出典：国土交通省)

免震建物棟数
(2011 現在 出典：日本免震構造協会)

全国の公立小中学校で耐震性がない建物
(耐震診断未実施の441棟を含む)
(2013.4 現在 出典：文部科学省)

風力発電導入量
(2013.4 未現在 出典：独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)

HV 乗用車保有台数(推定値)
(2011.3 末 現在 出典：一般社団法人次世代自動車振興センター)

自動車・歩行者と分離された自転車走行空間
(2010.4.1 現在 出典：国土交通省、警察庁)

スマートフォンの世帯保有率
(2012 末 現在 出典：総務省)

(* 以外はすべて国内における数値)

13:00	<p>インフラ維持管理の高度化</p> <p>11-M1 維持管理情報基盤としてのCIMのあり方と今後の課題</p> <p>国土交通省が2012年度から試行業務を開始したCIM(Construction Information Modeling)の全体像を話し、特に維持管理情報基盤としてのCIMの役割について詳述します。さらに関連する最先端の技術と未解決の課題および求められる技術開発について紹介します。</p> <p>大阪大学大学院 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻 教授</p> <p>矢吹 信喜 氏</p>	<p>未来の情報インフラデザイン</p> <p>11-T1 NTT DATA Technology Foresight ～ 社会を支える環境適応型の粘り強いITインフラ～</p> <p>社会インフラの中核を担うITインフラには、自律的な最適化と脅威に対する頑強さが要求されるようになっていきます。本講演では、目覚ましい技術革新が進む「環境適応型の粘り強いITインフラ」について最新の技術動向を紹介します。</p> <p>株式会社 NTT データ 執行役員 技術開発本部 本部長</p> <p>木谷 強 氏</p>	<p>新たなエネルギーマネジメントの展開</p> <p>11-E1</p> <p>「見える化」後の HEMS の可能性</p> <p>HEMSへの期待は大きいものの、見える化の先のデータ利活用がなかなか本格化しません。現在普及が進みつつあるHEMSは10年後にも使われているのでしょうか。将来の暮らし方を見据えつつ、HEMSの動向を整理し、今後の展開の可能性について考えたいと思います。</p> <p>東京大学 生産技術研究所 エネルギー工学連携研究センター 准教授</p> <p>岩船 由美子 氏</p>	<p>Design & Engineering の伝統と多彩</p> <p>11-C1 構造解析の今昔 ～構造設計者の立場から～</p> <p>これまで超高層建物の構造設計に関係し、静的骨組み解析・振動応答解析プログラムの開発・設計利用を行ってきた経験から、これらの歴史的経緯を振り返り、現在の構造設計者が構造解析に取組む姿勢に言及します。</p> <p>東京理科大学 名誉教授 一般社団法人 日本建築構造技術者協会 (JSCA) 本部担当理事</p> <p>寺本 隆幸 氏</p>	<p>ものづくりを支援する IT</p> <p>11-S1 ものづくり現場の変化をマネジメントする IT</p> <p>製造業を取り巻く変化の激しいグローバル環境で「過渡期の常態化」が当たり前となる中、今後必要になる、現場の状況変化を表す有意データをリアルタイムで取り上げ、マネジメントに生かす仕組み作りを解説します。</p> <p>株式会社 smart-FOA 代表取締役社長 元 プリチストン 取締役常務 元 東京大学ものづくり経営研究センター 特任研究員</p> <p>奥 雅春 氏</p>	<p>ものづくりを発展させる新技術</p>
	<p>14:20</p> <p>11-M2 道路点検の課題とICTを活用した点検技術</p> <p>ICTの活用によるインフラ管理の高度化・効率化への社会的要請が高まっています。本講演では、このたび開発された、センサと送受信装置を用いてセンシング・データを高速走行する車両に通報するシステムを紹介します。</p> <p>株式会社ネクスコ東日本エンジニアリング 技術開発部 研究主幹</p> <p>藤原 博 氏</p>	<p>11-T2 耐災害 ICT の統合的検証</p> <p>耐災害に焦点を当てた様々なICT技術を、現実のネットワーク環境を大規模エミュレータで模倣した環境に組み込み、災害シナリオを与えて実行することで、実践的かつ統合的に検証する試みを紹介します。</p> <p>北陸先端科学技術大学院大学 情報社会基盤研究センター 教授</p> <p>篠田 陽一 氏</p>	<p>11-E2 EoD: 削減率を保証する需要家内電力制御システム</p> <p>スマートグリッド実証などの取組みにより、デマンドレスポンスなど供給側における需要抑制の仕組みが実用化されつつあります。一方で需要家側の電力管理の仕組みは、「見える化」や事前設定した機器制御などに留まっています。本講演では、設定した削減率を自動的かつ確実に達成する電力制御システムの取組みを紹介します。</p> <p>京都大学大学院 情報学研究科 特定准教授</p> <p>加藤 丈和 氏</p>	<p>11-C2 日本の洋上風力発電の最新情報と今後の展望</p> <p>世界の風力発電は土地の制約が少なく、大規模化が容易な洋上風力発電に大きく舵を切っています。そんな中、世界でもまだ新しい技術である浮体式洋上風力発電を日本が牽引していく可能性と、今後の展望について解説します。</p> <p>東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 教授</p> <p>石原 孟 氏</p>	<p>90分講演</p> <p>株式会社 smart-FOA 代表取締役社長 元 プリチストン 取締役常務 元 東京大学ものづくり経営研究センター 特任研究員</p> <p>奥 雅春 氏</p> <p>*講演後、所員による当社の製品説明を予定しております。(約20分)</p>	
<p>☕</p> <p>コーヒーブレイク</p> <p>15:20- (30分)</p> <p>15:50</p> <p>11-M3 ICTを活用した鉄道メンテナンス業務の革新</p> <p>ICTの発展に伴う社会情勢の変化に合わせ、鉄道メンテナンス業務をTBM (Time Based Maintenance) からCBM (Condition Based Maintenance)へ変えていく取組み(スマートメンテナンス)を始めています。本講演では、スマートメンテナンスの概要とその実現に向けて行っている研究開発について施設分野の事例を中心に紹介します。</p> <p>東日本旅客鉄道株式会社 JR 東日本研究開発センター テクニカルセンター 主幹研究員</p> <p>瀧川 光伸 氏</p>	<p>11-T3 ReBORN: 業際&マルチカルチャーイノベーション</p> <p>アベノミクスを契機として、「ReBORN」、生まれ変わるべき日本社会と産業の再創造の糸口を、①先端技術によるイノベーションから異業種の協業による業際イノベーションへの変革、②グローバルの競争に替わるマルチカルチュラルな共創の2つのパラダイムシフトから述べます。</p> <p>90分講演</p> <p>株式会社トヨタ IT 開発センター 代表取締役会長</p> <p>井上 友二 氏</p>	<p>ヒト・モノの移動の近未来展望</p> <p>11-D3 シミュレーションによる交通・物流の最適化 通訳あり</p> <p>ドイツに本社を置くPTV Groupは、リアルタイムの交通データと交通シミュレーションを組み合わせ、将来の交通を予測するサービスを提供しています。交通・物流の世界でこの技術がどのように使われ、最適化がなされているかを欧州の先端事例を交えて紹介します。</p> <p>PTV Group Traffic Software Marketing & Sales Vice President</p> <p>Miller Crockart 氏</p>	<p>11-C3 木質構造のこれまでとこれから</p> <p>木造は、建築防災の観点から1959年に日本建築学会で禁止決議がされました。一方で、今日ではこれを見直し、活用を促進する動きが盛んになっています。これらの背景を示すとともに、木質構造の構造的な問題点を指摘しつつ、今後10年でどのような変化が予想されるかについて概説します。</p> <p>京都大学 生存圏研究所 生活圏構造機能分野 教授</p> <p>五十田 博 氏</p>	<p>11-S3 これからの日本のものづくりは3D一気通貫で!</p> <p>「3D-CADを導入したものの、開発スピードや設計品質が思うように上がらない。製造現場ではまだまだ二次元図面を広げている。」そんな現状を打破するヒントを“3D一気通貫”と“TPD (Total Product Development) : 全社的製品開発”をキーワードに解説します。</p> <p>関ものづくり研究所 代表</p> <p>関 伸一 氏</p>	<p>11-B3 人間指向デザインのためのデジタルエンジニアリング</p> <p>「脱コモディティ化」に有効な「人間指向デザイン」を実現するため、人間と製品の物理的・認知的な親和性を仮想的に評価できるシミュレーション技術(デジタルハンド、情報機器3Dプロトタイピング)の研究事例と応用例を紹介します。</p> <p>北海道大学大学院 情報科学研究科 システム情報科学専攻 教授</p> <p>金井 理 氏</p>	
<p>17:00</p> <p>11-M4 社会資本のエイジングに対応するセンサとロボット技術</p> <p>インフラは長期に渡って使用されますが、我が国では今後老化が急速に進み、安全やメンテナンスの費用負担が大きな社会課題となります。目視点検に加えて、センサやロボット技術適用の期待と可能性について紹介します。</p> <p>東京大学大学院 情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻 教授</p> <p>下山 勲 氏</p>	<p>11-T4 しなやかで知的な次世代モバイルネットワークインフラへ 日本語講演</p> <p>世界規模の通信データ量増大と携帯電話普及に伴い、ヘテロジニアスネットワークを利用したハイパフォーマンスで経済性にも優れた通信網の整備拡充が急務となっています。本講演では、これらの課題に関する様々なソリューション事例とともに、災害時の緊急ワイヤレスネットワーク構想とその欧州での取組みについても紹介します。</p> <p>*17:30 開始となります。ご注意ください。</p> <p>Fraunhofer Institute for Telecommunications Heinrich Hertz Institute Representative Japan</p> <p>Fahim Nawabi 氏</p>	<p>11-D4 グローバルロジスティクスの展望とイノベーション</p> <p>国内外でムリ・ムダ・ムラのない全体最適な物流の実現を目指す総合物流施策大綱の策定に向けた議論を土台とし、グローバルロジスティクスのありのままの姿と将来像、そしてその実現のために必要なイノベーションについて熱く語ります。</p> <p>一般社団法人 日本物流団体連合会 国際業務委員会 委員長 (日本郵船株式会社 取締役 常務経営委員 一般貨物輸送本部長)</p> <p>丸山 英聡 氏</p>	<p>11-C4 CAE導入により、設計改善・品質向上だけでなく、設計の自動化推進で工数削減も達成したことで、設計ノウハウ蓄積や設計情報有効活用による生産革新に挑戦している中小企業の活動を紹介します。</p> <p>株式会社マキノ 品質管理部 部長</p> <p>北川 雅彦 氏</p>	<p>11-S4 3次元情報を核にした設計・生産業務改革の取組み</p> <p>株式会社 smart-FOA 代表取締役社長 元 プリチストン 取締役常務 元 東京大学ものづくり経営研究センター 特任研究員</p> <p>奥 雅春 氏</p>	<p>11-B4 現場から始まるものづくり～医療を支える遠隔支援～</p> <p>本講演では、医療現場で起きている技術者の人材不足等の課題克服、安全な医療の手助けとなるものづくりについて、長年医療界に従事されているアイティーアイ株式会社と構造計画研究所の現在の取組みを事例を交えて紹介します。</p> <p>株式会社構造計画研究所 デザイン工学部 知識デザイン戦略室長</p> <p>高幣 玲児 氏</p>	

基調講演

10:00

20-K1

アベノミクスは日本経済を救えるか？

安倍政権は、アベノミクスを掲げ、日本経済をデフレ的停滞状態から脱却させる方針を明確化しました。「金融緩和」「財政出動」「成長戦略」のいわゆる「三本の矢」からなる政策は、果たして期待される効果を持つのでしょうか？そもそもアベノミクスの諸政策は予定通り完遂されるのでしょうか？アベノミクスの現状と課題について考えます。

星 岳雄 氏

東京大学教養学部卒業、米マサチューセッツ工科大学 Ph.D.(経済学) 取得。
米カリフォルニア大学サンディエゴ校助教授、准教授、教授などを歴任。
現在は、スタンフォード大学 ファイナンス教授 (ビジネス・スクール)、
高橋寄附講座シニア・フェロー、日本プログラムディレクター (アジア太平洋研究所)。
専門分野は金融論、マクロ経済学、日本経済論。
代表著書は「日本金融システム進化論」(2006)「何が日本の経済成長を止めたのかー再生への処方箋」(2013)、いずれも、日本経済新聞出版社、アニル・カシヤップ氏共著。



Photo by Masato Kato

お昼休憩

13:00

これからの危機管理と防災まちづくり

21-G1

東日本大震災 ～岩手県の対応と教訓～

未曾有の被害をもたらした東日本大震災。通信の断絶、道路の不通、インフラの機能停止、燃料不足等の中で、岩手県災害対策本部はどのように対応し、どのようなことが課題だったのでしょうか。元陸上自衛官として阪神・淡路大震災を、元岩手県防災危機管理監として東日本大震災を経験した講師から、その教訓とともにお話いただきます。

岩手大学地域防災研究センター 教授
(元 岩手県防災危機管理監)
越野 修三 氏

社会・企業・イノベーション

21-V1

アルゴリズムとイノベーション

リスク測定 & 分散のアルゴリズムは、世界市場の自動取引を可能にするなどの新たな価値を生み出す半面で、株式市場での不安定性や世界的な金融危機の元凶にもなっています。ビッグデータ時代に期待が集まる中、アルゴリズムが生み出すイノベーションの正と負の側面に焦点をあてながら、社会のリスクを緩和するための新しいイノベーションの可能性についてお話しします。

防衛大学校 情報工学科 教授
生天目 章 氏

14:05

21-G2

震災による経済損失予測と復興シミュレーション

地震災害の規模を示す指標の一つである「直接被害額」が持つ防災への意味と活用について、1995年の阪神・淡路大震災を含む既往の地震災害から考察するとともに、直接被害額の予測手法および経済復興シミュレーションの基礎的な考え方を述べます。

立命館大学 歴史都市防災研究所 副所長
立命館グローバル・イノベーション研究機構 教授
谷口 仁士 氏

イノベーションとは ～ 経済社会変革にむかって～

イノベーションとは何か。どのような特質をもち、どのような難しさや課題があり、どのような意義と醍醐味があるのか。シュンペーター、ドラッカーといった先達の議論に学び、歴史的な事例に触れながら、考えてみたいと思います。

京都大学大学院 経済学研究科 教授
武石 彰 氏

コーヒー
ブレイク

15:00-
(30分)

15:30

21-G3

時代の潮流と今後の防災まちづくりのあり方

防災まちづくりは、東日本大震災を契機に新しい局面に入りました。一方、社会のトレンドは大きく変わり、そのモデルチェンジの必要に迫られています。本講演では、時代の潮流をふまえて防災まちづくりの展望を示し、その実現に寄与するまちづくり計画支援技術のあり方についてお話しします。

東京大学生産技術研究所 都市基盤安全工学国際研究センター 准教授
加藤 孝明 氏

21-V3

Professional Design & Engineering Firm としての 構造計画研究所が発信するイノベーションとは

シリコンバレーの Computer History Museum には計算尺からいかに科学技術用コンピュータが生まれたかがわかりやすく展示されています。当時タイガー計算機を利用していた創業者の服部正が、構造計算業務にコンピュータを導入しようと夢見て当社を創業し50年以上の歳月が経ちました。これまでの当社のイノベーションの取組みを紹介すると共に、社会にとって価値とは何かを問いながら、今後の当社のあり方をお話しします。

株式会社構造計画研究所 代表取締役社長 CEO
服部 正太

16:35

21-G4

想定外への挑戦、リスク新時代の危機管理と価値選択、戦略としてのレジリエンス ～金融力で災害レジリエンスの高い日本社会をデザインします～

講演でのキーワードは以下の通りです。東日本大震災が企業経営に与えたインパクト/危機管理の目的と手段/災害現象のメカニズム/レジリエンスの正しい解釈/レジリエンスに関する内外動向と日本の危機管理能力(世界経済フォーラム) /「BCM格付融資」の金融技術と哲学/日本社会に適した災害レジリエンス/危機管理と価値選択/危機管理とイノベーション/日本最悪のシナリオなど。

株式会社日本政策投資銀行 環境・CSR部 BCM 格付主幹
蛭間 芳樹 氏



展示の
ご案内

17・18の両日、講演テーマに合わせて、当社の関連ソリューションの展示、デモを行います。コーヒーブレイクなどの休憩時間に是非お立ち寄りください。



4フロアにて



お申し込み

- ・セミナーの受講には**事前の登録**が必要です。
- ・下記ホームページまたは同封の**FAX 申込書**にてお申し込みいただけます。
- ・登録が完了した方には受講票を送付いたします。
- ・当日は受講票をお持ちください。

KKE Vision 2013 の参加登録・詳細はこちら

<http://kkevision.kke.co.jp>



会場アクセス

ヒルトン東京

<http://hiltontokyo.jp>

〒160-0023
 東京都新宿区西新宿 6-6-2
 TEL : 03-3344-5111
 FAX : 03-3342-6094

【JR・私鉄・地下鉄】
 新宿駅（西口）より徒歩約 10 分
 【地下鉄丸ノ内線】
 西新宿駅（C8 出口）より徒歩約 2 分
 【地下鉄大江戸線】
 都庁前駅より徒歩約 3 分



お問い合わせ

KKE Vision 2013 事務局

株式会社構造計画研究所 海外・マーケティング戦略部

TEL 03-3229-2651

受付時間
平日 9:00 - 17:00 (土日祝休み)

FAX 03-3229-2650

E-mail kv2013@kke.co.jp